屋外用ホスクリーン　施工要領

取付けは、製品の落下や事故を防ぐために、建築構造を理解されている方が行ってください。

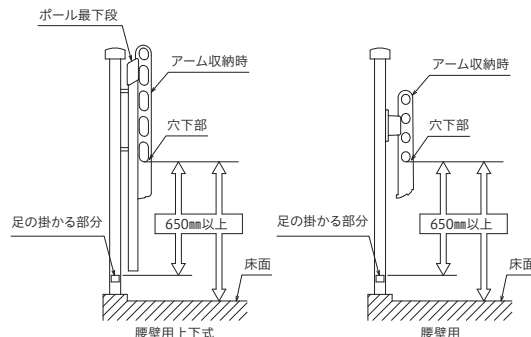
腰壁用上下式　LP型／EP型／EPL型／GP型／GPL型／DS2型
腰壁用　HB型／HC型／HD型

1.取付ける高さについて（安全性の確保）

ベランダの腰壁や手すりに取付けるタイプの物干は、お子様がよじ登って転落するなどの事故を避けるため、設置高さにご注意ください。特に収納時の竿の位置については注意が必要ですので、右図をご参照ください。

●収納時の竿高さ650㎜は最低基準です。800㎜以上確保できるとより安心です。

●スライド収納式のDS2型は、竿2本とも最上部（元々の手すりレールの高さ付近）に収納されますので、もっとも安心です。

●ポールで上下するタイプ（LP型/EP型/GP型）については、取付け後でも竿の収納位置を上げることができます。

2.取付ける幅について

2本の物干を取付ける間隔については特に決まりはありませんが、取扱いのしやすさを考慮すると、1.8〜2.4m程度の取付間隔をお勧めします。

※入手が容易な市販の伸縮式竿（1.7〜3.0m）にマッチする取付間隔です。
当社製「竿止め金具付物干し竿」をご使用の場合の物干設置間隔については、P.88をご参照ください。
また、竿の両端が出る分だけ物干の両外側にも余裕が必要となります。
（腰壁が入り隅となっている場合にはご注意ください）

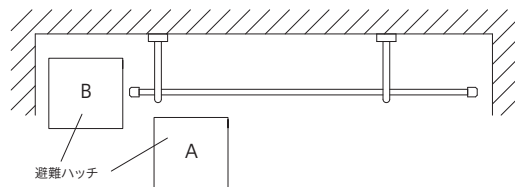
3.竿止めの使用について

腰壁側で使用する物干は、強風にあおられるなどの万一の事故により竿が抜けてベランダ外に落下すると非常に危険です。市販の竿止めまたは当社製「竿止め金具」をご使用ください。→P.88

4.集合住宅などで避難ハッチがある場合

避難ハッチ上に物干本体及び竿がかかると、避難の妨げとなる恐れがあります。

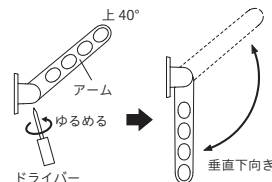
●HD-35型/EP-45型/GP-45型などの、壁からの出寸法が小さい製品を用意しました。
（避難ハッチの位置Aに対応）

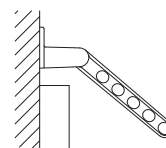
●竿が横にずれてハッチにかぶさらないよう固定したい場合には
当社製「竿止め金具」が有効です。
（避難ハッチの位置Bに対応）→P.88

5.物干を3本一組で設置する場合の注意点

物干を真ん中にもう1本追加して取付けるケースがあるようですが（竿間隔が長いのでたるまないように…など）、そうした設置方法では製品が使いづらくなる場合があります。この場合は物干2本セットに短い竿を挿したものを2組設置する方が本来の性能を発揮でき、快適に使用できます。

窓壁用　HK型／HKL型／RK型／HKY型／EK型

1.取付ける高さについて

窓側の壁に取付ける製品です。竿が175㎝程度の高さになるように設置すると、身長145㎝の方でも容易に手が届く高さとなります。また、取付後も角度調整による竿の高さの変更が可能です。（EK型を除く）
使う方の身長にあわせて設置する場合は、身長＋30〜35㎝の高さを目安としてください。
●HK型・HKY型・HKL型はアームを垂直下向きにするためには右図のようにネジをゆるめる必要があります。

2.窓上に設置する場合

物干のアームを斜め下にした状態で使いやすい高さとなるサイズをお選びください。
戸袋やシャッターなどの出っ張りが大きい場合には、右図のようなロングベースタイプ（HKL型）が適しています。

3.腰壁側への設置禁止

窓壁用物干をベランダの腰壁・手すり側に取付けると、物干アームを斜め下にした場合や収納時に竿位置が低くなり、お子様がよじ登って転落するなどの危険性がありますので絶対におやめください。

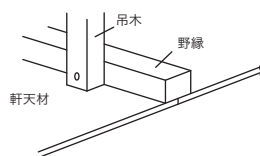
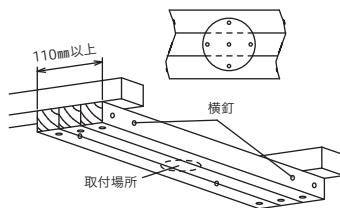
軒天用　Z型／ZP型／ZA型／ZAN型

1.取付下地について

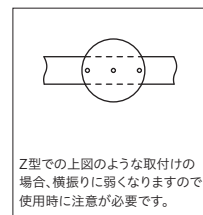
【木製野縁の場合】

●下向きの荷重に対して吊木などで補強してください。

●ネジ止めのために必要な下地の幅は製品により異なりますので、下図を参照してください。

Z・ZP・ZA・ZAN型
【吊木による補強】

Z型
【野縁の幅補強例】

Z・ZP・ZA・ZAN型
【野縁１本に取付ける場合】

ネジの締め付けにより割れなどが起こらない幅が必要です。

Z型での上図のような取付けの場合、横振りに弱くなりますので使用時に注意が必要です。

【軽天材の場合】　Z型／ZP型／ZA型／ZAN型

●軽天材に直接取付けることはできません。木下地を作り、【下地が木製野縁の場合】と同じ補強を行ってください。

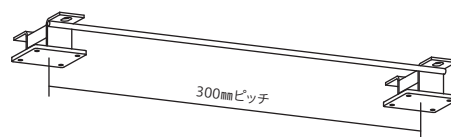
2.取付方法について

【金属垂木の場合】　ZP型／ZA型／ZAN型

●金属垂木に取付けるためのパーツ（HP-16）を用意しています。

【コンクリートの場合】

カットアンカーなどでの後付けはできません。

ZP型/ZA型/ZAN型
●市販のRC用インサートアンカーをご使用ください。
Z-207型/Z-215型/ZP-207型
●市販のRC用ダブルインサートアンカーをご使用ください。

Z型
●市販のRC用インサートアンカーとZRC金具（P.82）をご使用ください。

インサートアンカー

ダブルインサートアンカー

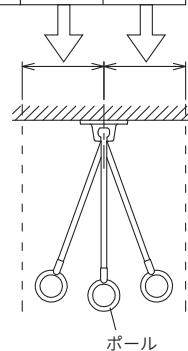
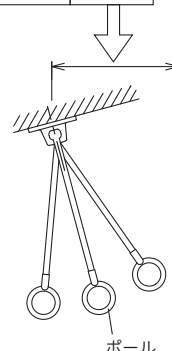
軒天用　SPO型

1.ベースの取付位置について

SPO型は吊り下げたポールがフリーに可動します。
商品取付けの際は、壁面やガラス面に当たらないよう、右表の寸法以上離した位置にお取付けください。
（特にガラスなどがあると、ポールが当たって破損する恐れがあります。）

※ポールのサイズや天井の角度により、寸法は異なりますので、取付ける前に実際にポールを動かし、周辺に当たらないことを確認してからお取付けください。
※15°までの傾斜天井に取付けできます。

	水平天井	
SPO-S ポール	330㎜	330㎜
SPOL-S ポール	400㎜	400㎜

	傾斜天井
SPO-S ポール	500㎜
SPOL-S ポール	600㎜

ポール　ポール

2.取付方法について

【コンクリートの場合】

市販のM6オールアンカー（全長45㎜、ネジ長さ15㎜）をご使用ください。

洗濯物目安重量【使用時の目安】

物干の目安重量表記について

物干の紹介ページに表記してある重量は、目安重量です。
物干単体の限度強度ではなく、取付下地への負荷も配慮した上で、通常の洗濯物干しの際にどの位の洗濯物が掛けられるかを表示しています。
数字はあくまで参考値となりますので、ご家庭の洗濯物量にあわせた物干選びの目安としてお使いください。
なお、こちらの数字は性能の保証値ではありません。物干単体では[目安重量]を十分に満たせる耐荷重性能となっていますが、
実際は下地の強度や取付方法により、この目安重量まで物を掛けることはできない場合があります。
取付けの際は、強度に余裕を持たせた下地をつくり、適切な取付パーツのご使用と取付説明書に従った施工が必要です。

洗濯物目安重量 ※2本1組で使用する場合の目安です。(1本と表示してあるものを除く。)

屋外用物干	洗濯物目安重量	掲載ページ
LP-55/70型	30kg	P.37
EP-45/55型	30kg	P.39
GP-45/55型	30kg	P.41
EPL-55型	30kg	P.43
GPL-55型	30kg	P.44
DS2-60型	30kg	P.45
HB-65/55/45型	30kg	P.51
HC-65/55/45型	30kg	P.53
HD-55/45/35型	30kg	P.55

屋外用物干	洗濯物目安重量	掲載ページ
HK-55/75型	30kg	P.63
HKL-65/85型	30kg	P.65
RK-55/65型	30kg	P.61
HKY-55型	30kg	P.63
EK-55型	30kg	P.67
Z-207/215型	20kg	P.77
Z-104/107型	20kg	P.75
ZP-207型	20kg	P.81
ZP-104/107型	20kg	P.79
ZA型	20kg	P.71
ZAN型	20kg	P.73
SPO型(1本)	20kg	P.84
JS型	15kg	P.86

室内用物干	洗濯物目安重量	掲載ページ
★SPC/SPD型(1本)	8kg	P.17
★SPE型（1本）	8kg	P.20
★URM/URB型	8kg	P.23
★UTM型	8kg	P.26
MD/MDL型	12kg	P.28

★：8kg超で赤色を表示する荷重目安ガイド機能付

【洗濯物の参考重量】
（洗濯機で脱水後の水分を含んだ重さ）

長袖ワイシャツ	0.25kg
Tシャツ	0.2kg
ズボン	0.5kg
ジーンズ	0.9kg
スカート	0.35kg
靴下1組	0.07kg
タオル	0.15kg
バスタオル	0.5kg
シーツ	0.9kg

【寝具の参考重量】

敷布団シングル	4.5～5.5kg
敷布団ダブル	6.0～7.5kg
掛布団シングル	2.0～2.5kg
掛布団ダブル	3.0～3.5kg
羽毛布団	2.0～2.5kg

【洗濯用品の参考重量】

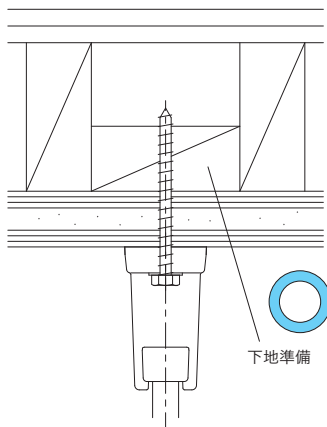
ステンレス製伸縮竿（最大3mのもの）	1.0～1.3kg
木製ハンガー	0.2kg
樹脂製ハンガー	0.1kg
角形ハンガー	0.6～0.8kg

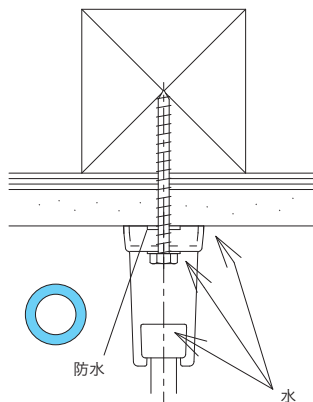
■ 例1.屋外用物干[GPL型+竿2本]
(物干取付間隔1.5m程度)
写真の状態で洗濯物約5kg+竿2.6kg
バスタオル×2 / タオル×8
Tシャツ他×6 / 靴下×8 / ハンガー、竿×2

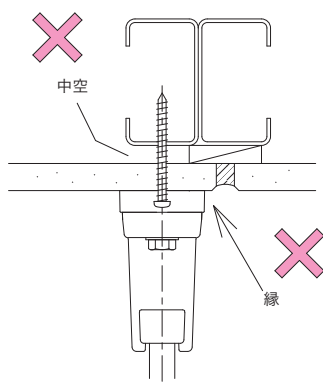
■例2.室内用物干[SPC型+竿1本]
(物干取付間隔1.8m程度)
写真の状態で洗濯物約2.5kg+竿1.0kg
Tシャツ他×4 / 靴下×5 / ハンガー、竿

物干金物の取付けについてのご注意

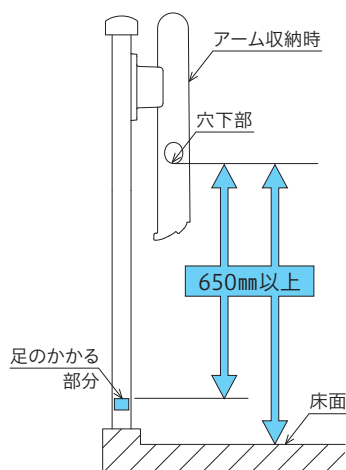
取付けにあたっては商品に付属の「取付説明書」を良くご覧になり、確実な施工を行ってください。
なお、本カタログに掲載の製品は専門業者による取付けを対象としています。

取付場所・位置

物干金物の取付場所や位置(高さなど)については図面指定があればそれに従い、無い場合はお施主様との打ち合わせにより決定してください。構造や取付方法によっては、その場所に下地材を前もって準備しておく必要があります。

防水処置

取付ネジ部から浸水があると、柱の腐食にまで進行する恐れがあります。外壁材などに下穴をあけたら穴やその周辺に防水シール材を充填し、浸水のないようにしてください。物干金物の外周部にシーリングをした場合も、取付ネジ部や金物構造の隙間から浸水がありますので、必ず穴をあけた部分の防水処置をしてください。

取付部の強度

使用するネジなどが十分に効くことだけでなく、その他の影響にもご留意ください。

- サイディング材の裏に中空部がある場合、その奥の柱にコーチスクリューなどを効かせようとすると外壁材が破損する場合があります。
- 外壁材の縁から近い所に穴あけ・ネジ締めなどを行った場合も、ひびが入って後から破損浸水する恐れがあります。

安全への配慮

ベランダ手すり(腰壁)側に物干金物を取付ける場合、物干本体や収納した竿などが足掛かりになり、転落事故につながる恐れがあります。したがって物干金物を取付ける場合は、転落事故を防止するため、アーム収納時の穴下部が「足のかかる部分」にならないように極力高い位置に取付けてください。法律や各種基準では「足のかかる部分」までを650㎜としていますが、安全のため、800㎜以上をお勧めします。

ネジの長さ

壁材が厚く、取付面から下地材(ネジが有効に効く部分)までが遠い場合は、それに見合った長さのネジをご用意いただく必要があります。

その他

お手入れについて

ステンレスやアルミ塗装品は腐蝕しにくい材料ではありますが、環境や使用期間により徐々に腐蝕します。表面についた汚れなどの放置は腐蝕の進行が早くなる大きな原因となりますので「お手入れの方法」や「使用方法・注意」などを記載した「取扱説明書」は必ずお施主様に渡していただくようお願い致します。

本カタログの表記について

・商品の色については、印刷と実物とは異なることがあります。
・商品改良のため予告なく仕様変更を行うことがありますのでご了承ください。